

電源の入らない「BOSE 1705 II」ステレオパワーアンプの修理を依頼されました。



※コンセントに繋いでメインスイッチを入れても電源が入りません。

コンパクトで音が良いと評判の「BOSE 1705 II」です。何度か修理したことがありますので構造はだいたいわかっていますが、今回は「電源が全く入らない」と言うことですので、中がどうなっているのか興味津々です。早速、分解してみましょう。



スポンサーリンク

目次 [隠す]

- 分解修理開始
- ヒューズだけが原因じゃないのか？
- メイン基板を探索
- 交換にかかります
- 元通りに組み立ててみます。

分解修理開始

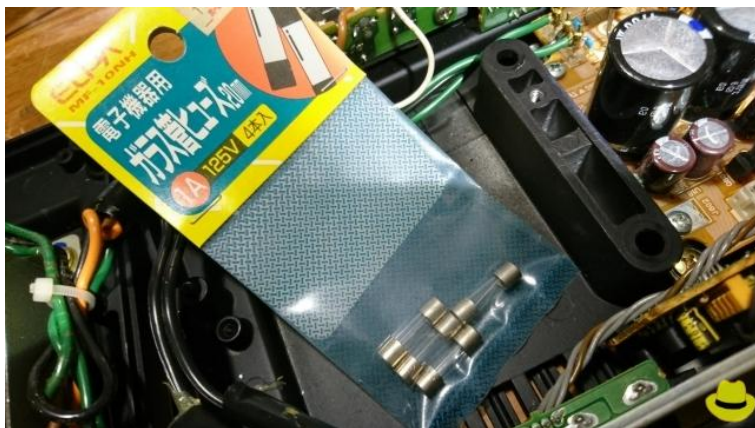


ビスの位置を確認します。見回してみると片面からアクセスできそうなので、とりあえず外していきます。この時、ビスは無くさないように100均で買った弱い磁石のついている入れ物に入れて保管します。また、ビスの数や種類が多い場合は使用箇所ごとに幾つか入れ物を用意すると良いですね。今回はビスの数が少ないので入れ物は1個で済みそうです。

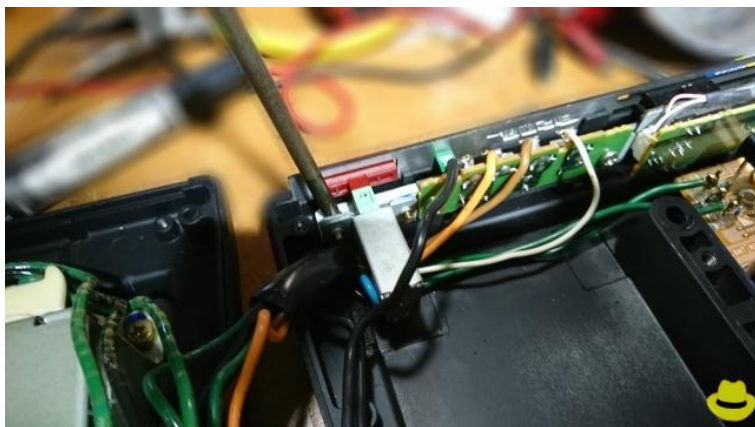
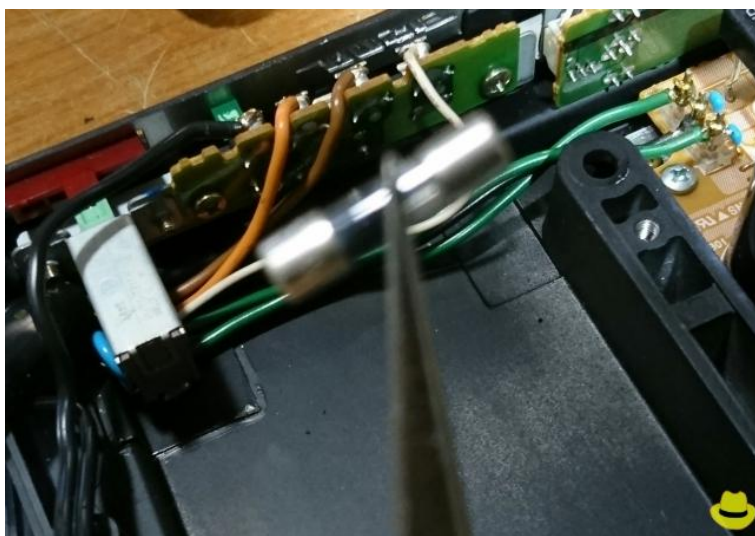
コンパクトにまとめられた良い造りですね。このモデルの元祖にはSONYが絡んでいたことがあるそうで、もしかしたら開発はSONYでやっていたのかもしれないですね。コンパクトですか、余計な省略をしていないところなど、どこか「往年の日本製」を感じさせる内部の構成です。

電源が入らないので電気の入り口から目視で辿っていきます。まず基本中の基本ですがヒューズに注目してみます。・・・やはり「ヒューズ」が切れていました。2Aのヒューズが切れていましたので、それより小さな1A（あまり小さすぎてもダメですよ。1Aがありましたのでそれを使います）を入れて電源をONにしてみます。



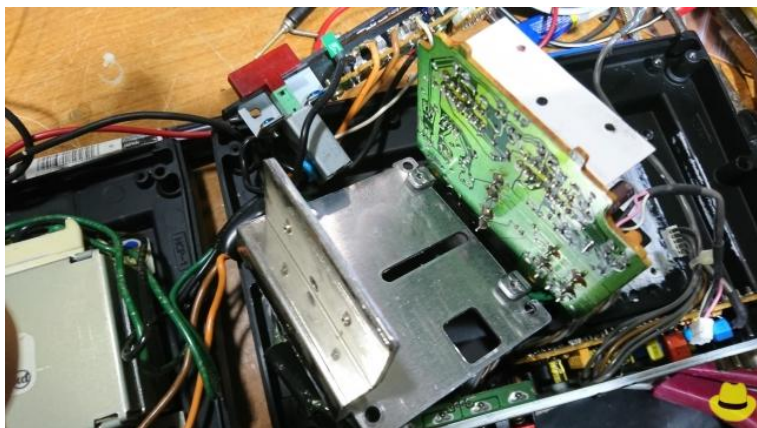


ヒューズだけが原因じゃないのか？



スイッチON とほぼ同時に「やはり断線します」原因はヒューズではないようですね。電源プラグを最上流とすればそれより下流「ヒューズの載っているサブ基板」を外して目視でチェックします。部品の焦げ目や欠損、基板に問題は無さそうなので電気の流れを順番に辿っていきます。

電源スイッチまわりのサブ基板は問題がなさそうでしたので、次はメイン基板をチェックします。一旦サブ基板を元通りに戻して、次はメイン基板を外して調べます。いくつかビスを外す必要がありますが、それを外して裏面も確認できるようにします。ラインがいくつか生えていますので何度も動かしてラインを切ってしまうないように注意が必要です。心配な場合はラインの接続先をいくつか画像で保管しておくのが望ましいでしょう。



メイン基板を探索



裏表を確認しながら、電気の入り口から辿っていきます。電源部分を目視します。「焦げたり破損したり」と目視の上では問題なさそうですね。電源部は傷んでなさそうです。一通り目視が終わってそれでも故障箇所が発見できなければ実際に電気を流しながらチェックするつもりです。

どうやらこのアンプはアンプICを使ってパワーアンプの部分のみ独立させた形式ですので部品点数も少なく、回路図がなくてもアンプICのデータシートを見れば想像つきそうな回路です。目視でラチがあかなくても部品一つ一つ確認しても大した手間はかかりそうにありません。